

【1】文型

1. 品詞と文型

名詞	: S / O / C
形容詞	: C / M(名詞を修飾)
副詞	: M(名詞以外を修飾)
前置詞句	: M

2. SVC と SVO の判別方法

SV+形容詞	: SVC
SV+名詞	: SVC (動詞が自動詞 / S=C)
SV+名詞	: SVO (動詞が他動詞 / S≠O)

3. there 構文

there 構文は2つのことを示す記号である。

1. 第一文型
2. 倒置

4. oneself の 2 つの用法

1. S=O
2. 強調

5. 動詞の意味と文型の関係

動詞の意味は文型によって決まる。

6. make を見たら, SVOC を疑う

make に限らず、第5文型を取る動詞を見たら。

7. 主語より前は全体で、副詞

【2】準動詞

1. 表

	to	ing	p.p.	意味
名詞	○	動名詞	×	～すること
形容詞	○	現在分詞	過去分詞	前の名詞にかかるだけ
副詞	○	分詞構文	分詞構文	いろいろ

2. 不定詞の副詞用法の訳

目的 / 条件 / 感情の原因 / 判断の根拠 / 結果 / 程度 / 形容詞の意味の限定 / 独立不定詞

※結果(wake up / grow up / live / only / never to ～など。)

程度(too ～ to … / ～ enough to … / so ～ as to …)

3. 分詞構文の訳(条件/譲歩/付帯状況/時/理由)

原則：適当に訳す。「て」「で」

例外：文末にあるとき

↓

「そして～」 「～しながら」

4～6. 意味上の主語

原則：書く

for 人	to ～
所有格(目的格)	動名詞
主格	分詞構文
かかる名詞	分詞

例外：書かない

(1) 意味上の主語＝文全体の主語

(2) 意味上の主語＝一般の人

7. 準動詞の形容詞用法 vs 副詞用法

意味上の主語が前にかかる名詞→形容詞用法

意味上の主語が全体の主語→分詞構文

8. 不定詞の形容詞用法 3 パターン

- 1.SV の関係
- 2.VO の関係(※O が欠けている)
- 3.同格の関係

9. 付帯状況の with

with OC(C : 現在分詞/過去分詞/形容詞/前置詞句/副詞)
「そして～」 「～しながら」

10. 準動詞の時制

原則 : 主節の時制に従う
例外 : 完了形⇒主節の時制よりひとつ過去

11. 疑問詞 to 不定詞

品詞 : 名詞句
訳 : 何を～すべきか (what to do)

【3】節

1. うしろ完全, 不完全

うしろ不完文 : who , whom , which , that , what

うしろ完全文

- 1.whose (うしろ裸の名詞,所有関係)
- 2.前置詞+関係代名詞 (※that は不可)
- 3.関係副詞 (the way +how は不可)

2. 動詞の数と接続詞・関係詞の数の関係

動詞の数－1＝接続詞・関係詞の数

3. 接続詞, 関係詞の数が合わないときは・・・

- 1.接続詞 that / 関係詞の省略
- 2.意外な接続詞

4. 意外な接続詞

5. 前置詞 対 接続詞

	前置詞	接続詞
～の間	during	while
～までには	by	by the time
～にもかかわらず	despite , in spite of for all , with all	though , although

※前置詞と接続詞の両方を持つ

till , until , before , after , since , as

6. that 節の分類

完全文: 接続詞

SOC: 名詞節「～ということ」

その他

名詞(思考・事実・発言) + that: 同格「～という」

副詞節

so～that…

so that～

感情の原因

不完全文: 関係代名詞: 形容詞節「前の名詞にかけるだけ」

7. 接続詞の as の 5 つの意味

時

理由

比例

様態

譲歩

8. 非限定用法(継続用法)

,which=and(but/for) it

9. 前置詞+関係代名詞

前置詞消してフツウの関係代名詞

10. 前置詞+関係代名詞+to 不定詞

=to 不定詞の形容詞用法

11. so～that…の必殺技

離れている	くっついている
so ~ that… so ~ as to… such ~ that…	so that~ so as to~ in order to in order that~
とても～なので… …するほど～	～するために
～に否定語→…するほど～	,so that: その結果～

12. how の訳し方

how＋形容詞/副詞＋SV :「どれほど～」
how＋SV :「どのように～」

13. 接続詞残しの分詞構文

接続詞＋ing/p.p

14. so の 2 つの訳し方

- 1.「その結果～」
- 2.「～するために」(that の省略)[助動詞が含まれることが多い]

【4】助動詞と法

1. 助動詞の 2 つの意味

must	～しなければならない	～に違いない
can	～できる	ありうる
may	～してもよい	～かもしれない
should	～するべきだ	～するはずだ

2. 仮定法の目印

助動詞の過去形

3. 仮定法の訳し方

時制が一つ過去にズレる

4. 仮定法の if 省略

倒置(疑問文の語順)

5. If 節代用表現

- (1) 不定詞
- (2) otherwise
- (3) 主語の名詞
- (4) 副詞句
- (5) 名詞句 + and

6. would の 3 つの可能性

- ①特殊な意味(過去の動作の習慣/過去の強い意思/それほど強くない意思)
- ②時制の一致によるもの
- ③仮定法

7. used to の3つのパターン

- ①be used to ~ing: ~することに慣れている
- ②used to 原形: 以前は~だった
- ③be used to 原形: ~するために使われる

8. 訳さない should

- ①「意外」「当然」などの判断の内容を示す that 節
- ②「要求」「主張」「提案」の内容を示す that 節

9. 助動詞 + have + p.p.

過去への「推量」と「後悔」をあらわす。

may + have + p.p.	「~したかもしれない」
must + have + p.p.	「~したに違いない」
cannot + have + p.p.	「~したはずがない」
should + have + p.p.	「~すべきだったのに」「~したはずだ」
ought to + have + p.p.	「~すべきだったのに」「~したはずだ」
need not + have + p.p.	「~する必要なかったのに」

【5】名詞・代名詞・冠詞・形容詞・副詞

1. 冠詞と名詞

- ・冠詞は名詞の始まりを表す記号。
- ・冠詞と名詞に挟まれた語句→名詞にかかる形容詞
- ・冠詞を見たら名詞を探しひとまとめ

2. 仮主語と強調構文

It is ~ that...

- ①~が形容詞/過去分詞 : 仮主語
- ②~が副詞 : 強調構文
- ③~が名詞かつ that 以下が完全文 : 仮主語
- ④~が名詞かつ that 以下が不完全 : 強調構文

3. some の考え方

- ①数量がそれほど多くないことがはっきりしている →「いくつかの」
- ②some で示す数(量)が多いとも少ないとも言えない →「~もある」
- ③some ~ , others... →「~もあれば...もある」
- ④some+普通名詞単数形 →「ある~」
- ⑤some+数字 →「およそ~」

4. 名詞と形容詞の位置関係

原則:長い形容詞 → 後ろから修飾

例外:短い形容詞 → 前から修飾

例外の例外: ~thing を修飾する形容詞 → 短くても後ろから修飾
alive, asleep, awake など → 短くても後ろから修飾

5. few と little

	可算名詞	不可算名詞
肯定(少しの)	a few	a little
否定(ほとんど~ない)	few	little

6. 代名詞の主語は...

原則、前の主語

7. it を見たら…

1. 代名詞
2. 状況の it (天候/距離/時間/明暗)
3. 仮主語・仮目的語/強調構文

【6】構文読解の鍵

1. 等位接続詞の前後

意味上文法上同類

2. 等位接続詞は 2 つの道

3. SV(思/言)の挿入

SV(思/言)を文頭に移して SV+that にする

4. 受動態を見たら…

能動態をイメージ(S を O に移動)

5. 過去形 vs 過去分詞(p.p.)

- | | |
|-----------|-------|
| 自動詞 | →過去形 |
| 他動詞で目的語あり | →過去形 |
| 他動詞で目的語ない | →過去分詞 |

6. 強制倒置

文頭に否定の副詞→疑問文の語順。

7. 同形反復による省略

8. 部分否定

not + 強い形容詞・副詞 = 部分否定→「…というわけではない」
例外: not ~ any/at all/ in the least / either = 完全否定

9. 論理接続の副詞

どんなに文中にあっても文頭で訳す。

10. コロン(:)とセミコロン(;))

A:B 「A=B」/「B が引用」

A;B 「and/but/or/for」

【7】その他

1. no+比較級+than

No から矢印 2 つ。

2. do の 3 つの用法

1. 一般動詞「～する」

2. 助動詞「まさに」

3. 代動詞

3. 他動詞とは？

「何を？」と突っ込める動詞。